

令和元年度長瀬町総合教育会議議事録

期 日	令和元年11月22日（金曜日）午後1時25分から午後2時28分
場 所	長瀬町役場 3階大会議室
出席者	大澤町長 野口教育長、西山教育委員、田端教育委員、齊藤教育委員、工藤教育委員 総務課：福島課長、染野主幹、村田主幹 教育委員会：内田次長、坂本指導主事、千島主幹
福島課長	<p>本日は、お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日、司会を務めさせていただきます、総務課長の福島でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議に入らせていただく前に、事前に皆様へいくつかご了解をいただきたいことがございますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、本会議は長瀬町総合教育会議設置要綱第6条に基づき原則公開での開催となっております。但し、個人の秘密を保つ必要があるとき、または公正が害される恐れがあるとき、その他公益上必要があると認めるときを除き、公開することとしております。本日まだ傍聴者がおりませんが、こられた場合は入室を許可したいと思いますのであらためてご承知置ください。また長瀬町総合教育会議設置要綱第7条に基づき、会議の議事録を作成のため録音をさせていただきますのでご了解をお願いいたします。</p> <p>続きまして配布資料の確認をさせていただきますと思います。本日の次第、続いて（1）長瀬町立小・中学校の現状について、続きまして、長瀬町立小中学校児童生徒数の現状と課題、以上3点となります。不足等はありませんか。それでは令和元年度長瀬町総合教育会議を開会いたします。次第に従って会議を進めさせていただきます。開会にあたりまして大澤町長よりごあいさつを申し上げます。</p>
町 長	<p>皆さんこんにちは。本日、令和元年度長瀬町総合教育会議を招集しましたところ、委員の皆様方にはお忙しい中、またお寒い中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日ごろから本町の教育行政の推進につきまして、ご尽力を賜っておりますことに心から感謝を申し上げます。開会に先立ちまして、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>この総合教育会議は、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化を図るため、教育大綱の策定のほか、教育に関する重点的施策についての協議等を行うものとし平成28年から開催してまいりました。</p>

	<p>本日も3件の議題がありますが、長瀬町の次世代を担う子ども達のための意見交換を行いたいと考えておりますので、教育委員の皆様から忌憚のないご意見を聞かせていただき、今後の本町における教育行政に活かしていければと思いますので、本日はよろしくお願いいたします。</p> <p>以上で、開会にあたりましてのあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
福島課長	<p>ありがとうございました。次に次第3議事録署名人の指名ですが、議事録に署名する署名人については、町長および町長が指名する1名の委員さんに署名をお願いしたいと存じますのでこの場で町長から1名の委員さんの指名をお願いしたいと思います。町長お願いします。</p>
町長	<p>それでは、工藤委員さんをお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
福島課長	<p>大澤町長と工藤委員さんにおかれましては、議事録ができ次第、確認していただき署名をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>次に次第4議事に入らせていただきます。長瀬町総合教育会議設置要綱第4条第1項に基づきまして大澤町長に議長をお願いします。なお議長として会議を進行していただきますが、併せて協議・調整にも加わっていただきたいと思います。それでは町長お願いします。</p>
町長	<p>それではしばらくの間、私が議長として協議・調整を進めさせていただきますのでご協力をよろしくお願いいたします。着座にて失礼させていただきます。本日の議題は「長瀬町立小・中学校の現状について」、「長瀬町の学校教育のあり方について」、「その他」の3件となっております。</p> <p>はじめに、「議題(1)長瀬町立小・中学校の現状について」、まず①令和元年度各種学力調査について担当より説明をお願いします。</p>
指導主事	<p>教育委員会 指導主事の坂本と申します。</p> <p>私からは、(1)の長瀬町立小・中学校の現状についてご説明、ご報告させていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに①令和元年度各種学力調査について「平成31年度長瀬町教育行政重点施策」も含めてご説明いたします。なお、改元前に通知が発出された各種施策、調査等の年度は、全て「平成31年度」となっていることをご承知置き願います。</p>

今年度、長瀬町教育委員会の「教育行政重点施策」は、基本理念に「一人ひとりが生きがいを持って活躍できるまち」を副題に「ふるさと教育の推進～心の教育の充実・発展を目指して～」を掲げています。この基本理念を元に、1. 確かな学力と自立する力の育成、2. 豊かな心と健やかな体の育成、3. 質の高い学校教育を支える環境の充実、4. 家庭・地域の教育力の向上、5. 生涯学習とスポーツの推進の5つの柱をたて、より具体的な施策に取り組んでいます。特に、学校教育における1の確かな学力と自立する力の育成については、「長瀬の子は当たり前の方が当たり前でできます！」とのスローガンの下、町内3校が同一歩調で指導を行っています。当たり前のこととは「誰に会ってもあいさつができます」「家庭学習・読書がきちんとできます」「すすんで元気な体をつくります」の3項目です。このことを、学校・家庭・地域が連携して取り組み、「大人が手本を見せて」「温かく見守って」「できたらほめる」指導を継続しています。また、学力向上に向けて、長瀬町小・中学校教職員の共通テーマとして「ねらいを明確にし、教え込み、考えさせる指導を徹底する。繰り返しで学習内容の定着を図る。」を掲げ、授業改善に取り組んでいます。

その成果が、各種学力調査の結果に反映されていると考えます。はじめに、小・中学校の全国学力・学習状況調査の結果からご説明します。

小学校では、国語・算数とも北部地区、県、全国と全ての平均正答率を超えています。中学校においては、数学が平均正答率を下回りましたが、国語、英語においては、小学校と同様に北部地区、県、全国と全ての平均正答率を超えています。

各教科の領域毎に分析した結果においても、小学校国語では、4領域全てにおいて、全国の平均正答率を上回っています。算数においても、同様に、4領域全てにおいて、全国の平均正答率を上回っています。

中学校国語においては、書くこと、読むことの領域で全国の平均正答率を上回っています。特に書くことでは、8ポイント近く高い数値を示しています。数学においては、残念ながら4領域において全国の平均正答率を下回る結果となりましたが、英語では、北部地区、県、全国と全ての平均正答率を超えています。

以上の調査結果を総合すると長瀬町小・中学校の学力は、埼玉県内でも非常に高い数値を示しています。学力はあくまで個人のものであり、学力の一部を示しただけの調査結果での序列化を生まないために順位は公開されていませんが、長瀬の子供たちの学力は誇れる水準にあると考えています。

次に、埼玉県の学力・学習状況調査の結果をご説明します。埼玉県学力

学習状況調査は、小学校4年生から中学校3年生までを調査対象としています。こちらの調査は、個人、学校とも平均正答率でなく、4年生からの1年ごとの学力の伸びに着目していることに大きな特徴があります。

この資料では、各学年間の「学力を伸ばした児童生徒の割合」を示しています。

例えば、小学校5年生の結果は、小学校4年生の1年間の学習で学力を伸ばした児童がどれだけいるかとなります。

国語においては、埼玉県全体では、学力を伸ばした児童の割合は51.2%となっていますが、長瀬町では、71.4%の学校と66.7%の学校と2校とも上回っています。特に5年算数では、県平均79.3%に対し、100%と90.9%と2校とも90%以上の児童が学力を伸ばしています。

同様に、中学校1年国語では、県平均72.2%に対し、長瀬町は82.4%、中学3年生だけが行った英語の調査においても、県の84.1%に対し長瀬町は95.2%と多くの生徒が学力を伸ばしている結果を示しています。一方、この調査においても、中学校数学の伸びは県平均を下回りました。また、本調査の本来の目的ではありませんが、平均正答率をみると、やはり長瀬町の子供たちの学力の高さを裏付ける結果が出ています。特に小学校高学年には、確実な学力の定着がみられます。

一方、課題が見られる中学校の数学ですが、より細やかな分析の結果、小学校高学年からつまづきの端緒がみられることがわかりました。長瀬町の小・中連携の強みを生かした授業改善で、課題解決に取り組んで参ります。

つづいて、長瀬町学校運営協議会について、ご報告いたします。

今年度、長瀬町小・中学校では、3校合同で学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして新たなスタートを切りました。コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校のことをいい、学校運営協議会委員には保護者だけでなく、地域の方々に参画していただいています。本年度発足したばかりでございますが、今までの活動をご報告させていただきます。学校運営協議会には地域の皆さんに多く参加していただいております。学校運営協議会の委嘱式を令和元年6月3日月曜日、ここ長瀬町役場大会議室で行わせていただきました。また、第1回長瀬町3校合同学校運営協議会を7月5日金曜日、長瀬中学校を会場に行わせていただきました。ここでは3校の学校運営の基本方針の説明を校長先生にしていただきご承認をいただきました。また、彩の国教育週間における授業参観を11月1日金曜日に行いました。学校運営協議会委員さん達に長瀬第

第一小学校学校、長瀬第二小学校学校、長瀬中学校の三校の授業を参観していただきました。また第2回長瀬町三校合同学校運営協議会を来月12月5日木曜日、長瀬第一小学校学校を会場に開催予定でございます。議題として各学校が地域に応援を要請したいことを掲げました。1番から8番までは各学校が地域に応援を要請したいことの要望をまとめたものです。ふるさと講師、交流活動の充実、学習支援講師、登下校の立哨指導、挨拶運動および緊急時のパトロール、PTA活動への協力、栽培活動の指導と体験、収穫祭、農業体験、環境整備等の応援要請がございました。また、地域の方々へは、地域が学校と連携して取り組みたいことの要望もだしていただく予定です。まだ発足したばかりでございますが、具体的な成果を出すためにこのような形でスタートをさせていただきました。私からの説明は以上です。

町 長

ありがとうございます。ただ今、担当の坂本先生から令和元年度の学力調査について、また、長瀬町学校運営協議会についてのご説明をいただきました。これにつきましてご質問、ご意見がございますでしょうか。よろしいでしょうか。ないようでしたら次に進めさせていただきたいと思えます。

それではご異議無しとすることでよろしいでしょうか。ありがとうございます。続きまして、③の児童生徒数の現状と課題について担当より説明をお願いします。

千島主幹

それでは、長瀬町立小・中学校児童生徒数の現状と課題につきまして、教育委員会教育総務担当の千島から説明させていただきます。お手元にお配りをいたしました資料に基づきまして、お話をさせていただきます。前に映し出してあります画面と同じものでございますので、見やすい方でご覧いただければと思います。

まず、小・中学校児童・生徒数の推移と推計についてです。

この表は、平成元年度から令和6年度までの長瀬第一小学校学校、長瀬第二小学校学校、長瀬中学校の児童・生徒数の動きをグラフにしたものでございます。

縦軸が児童生徒数、横軸が年度で、青い線が第一小学校、赤い線が第二小学校、緑の線が中学校となっています。

なお、令和元年度までは推移で、来年度以降は推計となっています。来年度以降の推計につきましては、現在、長瀬町に在住している子供の数を、年代毎に集計をし、見込んだものとなっています。

このグラフを見ますと、この約30年で児童生徒数が大幅に減少していることが分かります。平成元年度を見ますと、第一小学校の児童は472名、第二小学校の児童は216名、中学校の生徒は414名でした。

今年度の第一小学校の児童数は222名、第二小学校の児童数は63名、中学校の生徒数は165名です。減少率でみると、第一小学校で53.0%、第二小学校で70.8%、中学で60.1%になっています。

さらに、今後の推計で見えますと、令和6年度には、第一小学校で184名、第二小学校で50名、中学校では149名になる見込となっています。

それでは、来年度以降の推計について詳細を見ていきます。

グラフは平成30年度以降で作成してあります。まず、第一小学校です。この表は学年別の児童数の推移を表したものです。今年度、第一小学校の児童数は222名です。その人数はグラフに示してありませんが、1年生が37名、2年生が34名、3年生が38名、4年生が41名、5年生が37名、6年生が35名となっています。

平成30年度から令和3年度までをみると、一学年30名～40名の間で推移しています。しかし、令和4年度を見ていただくと、その枠から少し外れてくる学年があります。赤い線の学年です。1年生です。次に令和5年度を見ますと、さらに大幅に下降し、さらに令和6年度においても、前年度から大幅に減少をしていきます。

さらに2年生、3年生をみてみると、1年生と同様に令和4年度から減少してきます。つまり、令和4年度以降、低学年の児童数の割合が低くなることが分かります。

次に、第二小学校です。

今年度、第二小学校の児童数は63名です。グラフに人数は入れておりませんが、今年度の学年毎の人数をみてみると、1年生が7名、2年生が14名、3年生が11名、4年生が11名、5年生が7名、6年生が13名で、一学級10名以下の学年は2クラスですが、令和6年度には5つの学年で10人以下となり、全校児童で49名となる見込です。

次に、中学校です。

中学校については、令和2年度に大幅に生徒数が減少し、令和6年度までは横ばいの状態が続く見込みとなっています。

次表は、小学校における児童数・学級数の現状と推計をまとめたものです。上段が第一小学校、下段が第二小学校となっています。この表で注目していただきたいのは、第二小学校の部分で色がついている箇所になります。

この色がついている箇所は、「複式学級になる可能性がある年度と学年」です。複式学級とは2つ以上の学年をひとまとめにした学級のことであり、一人の教師が同じ教室で2つの学年を教えることとなります。

複式学級になる基準として、2つの学年の児童で学級を編成する場合、小学1年生を含む場合は8名以下、小学2年生以上になりますと、16人以下になった場合、複式学級となります。

なお、これらの推計を算出するのに、特別支援学級在籍児童は含んでいません。黄色で着色した部分は、令和2年度の5、6年生です。5年生が10名、6年生が7名で合計で17名ですが、1名でも転出者が出ると、複式学級になる学年です。ここでは、複式学級の可能性があるので、5、6年生で1クラスとして示してあります。

また、ピンクで色を付けた箇所は、まさに複式学級になる年度と学年になります。令和3年度の2、3年生 令和5年度からは2、3年生と4、5年生のクラスが複式学級となる見込ですので、全校で4クラスになります。この表からは、複式学級になる状況は、すぐそこまで来ているということが分かります。

次表は、中学校における生徒数・学級数の現状を推計をまとめたものです。

先ほども説明をしたとおり、来年度に大幅に生徒数が減少します。その後、令和6年度までは横ばいの状態が続く見込みです。クラスの数も一学年2クラスで増減はありません。

最後に、現状と推計を踏まえた課題をまとめました。

まず、2校ある小学校は同じ町内でありながら、一校は一学年2クラスになるかならないかのギリギリの人数。もう一校は、複式学級になるかならないかのギリギリの人数という状況であるということです。

次に相互の評価が固定化しやすい状況になるということがあります。

また、集団の中で自己主張することや他者とコミュニケーションをとる機会が少なくなるという心配もあります。

さらに多様な物の見方、考え方、表現の仕方に触れる学習機会が少なくなります。

そして、今回は、令和6年度までの推計を示しましたが、それ以降も児童生徒数は減少傾向にあります。

また、子ども同士が切磋琢磨し、社会性を育みながら成長していくという機会が減少してしまうのではないかという不安もあります。

児童・生徒数の減少をふまえ、小・中学校の今後のあり方について検討が必要な時期となってきました。

	<p>今回「長瀬町立小・中学校 児童生徒数の現状と課題について」推移と推計、また現状と課題について説明させていただきました。</p> <p>この後に意見交換会も予定していますので、その参考にさせていただければと思います。以上で説明は終わります。ありがとうございました。</p>
町 長	<p>ありがとうございました。ただ今、児童生徒数の現状と課題について担当より説明がありましたけれども、これにつきまして皆さんからご質問ご意見をいただきたいと思います。何かございますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは異議無しと言うことでよろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは続きまして先ほどの児童生徒数の現状と課題についてを踏まえて、議題（２）の長瀬町の学校教育のあり方について、皆様のご意見をいただきたいと思います。遠慮なくフリートークでご意見をいただけたらと思います。</p> <p>どなたかいらっしゃいますか。西山委員どうでしょうか。</p>
西山委員	<p>今、現状等を聞かせていただいた訳なんですけど、子どもが少なくなってしまうということで、少なくなると複式学級とかそのような状況になるということなんですけど、それに伴って先ほどおっしゃった課題等も増えてくると、これから何年か先は確実になるということですから、何か手を打っていないといけないのかなという気がしますが。</p>
町 長	<p>そうですね。実は私が町長に就任いたしました平成 25 年当時は第二小学校も 100 名以上いたものですから、まさかこのように減少するとは思っておりませんで学校はなくさないよということ言ってたわけでございますけれども、その 4 年間の中で本当にがたがたというほど人数が減ってしまひまして困ったなあということで。公約でございましたので、この 4 年間はじっと我慢をしてまいりましたけれども二期目の時にはどうもこれは考えていかなければならないということで、この公約は破棄させていただきました。今、6 年経ちましたけれども、まだまだ減少が止まらないという中でこれはなんとかしなくてはならないなということで政策会議をやっておりますけれどもその中でいろいろとご相談をさせていただいておるところでございます。細かい話は教育長の方からお願いしたいと思います。</p>
教育長	<p>子どもの数が少なくなっって一番如実にほんと困ったなというのは昨日の</p>



県の人事ヒアリングで、4月までに子ども達が転出異動するのを見越して学級編成をするわけなんです。第二小学校では転出はないと思うのですがその時の条件が2学年で20人未満だと複式にする。第二小学校では来年度20人未満のところは2つあるわけです。そうすると正規の教員を一人しか配置してくれない、そしてこれからすぐに保護者に文書を出して4月の10日頃までに転出があるかないかを調査するわけです。ないということが確実になれば県に連絡をして正規の職員を2人配置してもらおうということになるんです。そういうような事務的な手続きも必要になってくるわけです。ですからやっぱり子どもがいて学校があるわけですから、もう少し子どもが増えればいいのですが、すぐすぐとはいきません。それは先ほど担当から説明がありましたように、もう3年度からは確実に複式が入ってくる、これについてはまだ長瀬町は経験がありませんので、これから研修をしながら子ども達に迷惑をかけないように、2学年を一クラスで指導してもらおうそのような研修をやっていかなければならないという考えでいます。いろいろ、多ければいいというわけではないですけども、少なければ少ないなりの課題が出てきているわけですので、これは早急に検討をし、最終的には子ども達のためにということで考えていきたいなと思っております。以上です。

町長

ありがとうございます。この現状と推計をふまえた課題と言うことで一番最後に小中一貫教育の検討が必要になると書いてございますけれども、選択肢は、あとは第一小学校と第二小学校を一緒にするとかでてくるわけでございますけれども、それよりも何よりもその前に協議会、検討委員会をつくっていただくのがいいかという思いがしています。ともかく待たなしてこのような状況になっておりますのでなんとか検討委員会をつくっていただいて、早急にやっていくような状況でいかないと無理かなと。何しろ財政が厳しいという状況でございますので頭が痛いところでございますが、ともかく子どものことですのでなんとか頑張ってやっていかなければならないと思っております。そういった中で、教育委員さん一人ひとり意見をお聞きしていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

田端委員

複式学級が良いか悪いかはというのは別問題と思うんですけど、町内で第一小学校・第二小学校の二つがあって、私も第二小学校出身でありますので学校に思い入れがありますから、じゃあ複式学級になりますといった場合に保護者の方がどう考えるかそういった、地域の人よりも保護者がどう考えるかが一番じゃないかという気がします。あと、第一小学校・第二

小学校が一緒になりますといった場合に、小学校は地域にとってはなんていうか、文化じゃないですけど、いろいろな活動の中心になるところがあると思ってるので、そう考えたときにじゃあ単純に第一小学校と第二小学校を一緒にしますとって、地域の人たちの理解を得られなければいけないかなというのを感じます。いつだったかこの話をしたときに、小中一貫とじゃあ第一小学校・第二小学校を一緒にするのとどちらがいいか私もちよっとわからないんですけど、一番子どもにとって児童にとって一番いい方法は何かって考えたときに、お子さんの気持ちとあとは保護者の方の気持ちと、正直言って複式学級にして生徒が少なければ目が行き届いていいという考え方もあるかもしれないけれど、あるいは同級生がある程度人数いたほうががいいといった将来的にも思い出じゃないですけどそういうのがあっていいかなって思いもあるし非常に難しい問題だと思うんですけど、じゃあ何がいいかって決められないっていうのが正直な所なんですけど、もう複式学級というのが来年、再来年に迫ってるということは何かしらの結論を出さないといけないというのは感じました。考えた場合にじゃあそれは複式学級を選ぶのか、第一小学校・第二小学校合併を選ぶのかその結論をとにかくいろいろな方に聞いて結論が出たらそれを保護者の方に同意を得てもらう、地域の方に同意を得てもらう、そういった手順が大事かなと感じました。

町 長

ありがとうございました。では齊藤委員さん。

齊藤委員

先ほどの、検討委員会を早急に開いていただくというのが私もすごく大事かなと感じるのでですけど地域の方、保護者の方の理解を得ると共に、子ども達もどう考えているのかということも話をしていくということが大事かなというふうに思います。今日、たまたまテレビを観ていて東京のある場所で、いつも子ども達が遊んでいる校庭の部分が使えなくなって、それを子ども達が集まって、区長さん達の所へ今までどおり使えるようお願いに行ったらそれは駄目なんだよと簡単に言われてしまいました。それでも子ども達はいろいろ考えていって、手紙を書いたり意見をまとめたりすごいいろいろな意見を持っているんだなとテレビを観て思いました。今日、現状の数字を見て、こういうふうに協議していただくと本当に身につまされるというか避けて通れない部分じゃないかなと感じたんですけど、知っていただくということが大事かなというふうに思いました。

工藤委員

私も皆さんとだいたい意見は同じなんですけど、やっぱり早めに準備と

	<p>どうかしないと、第一小学校・第二小学校を合わせるにしても複式にしても準備って相当な時間がかかると思うので、親の意見、子どもの意見、あと地元の皆さんの意見を聞いて、小学校は今でも地域の皆さんの協力がたくさんあるので、そういった方々の意見もやっぱり聞き入れないといけないので相当時間がかかると思うんですけど早めにやっつけていかなければいけない問題だなと思います。小学校をまとめるとなるとかなり時間もかかると思いますし、先ほどの話のお金の問題もあると思うんですけど、検討委員会を早めにつくって準備を進めていった方がいいかなと思っております。</p>
町長	<p>ありがとうございます。職員の皆さんにも意見をお聞きしたいと思いますが。</p>
村田主幹	<p>私は第一小学校出身なんですけど、自分も子育てしてきて実際、小学校第一小学校・第二小学校があってこれが統合するとなると保護者の間でも意見がたくさん出てくると思うし、地域に根付いた両校であるので、先ほど委員さん達もお話しされていたように、早めの準備、検討委員会を開いてやっていくのがいいのではないかなと思います。</p>
染野主幹	<p>私は樋口の、第二小学校の出身なのでこれで万が一、第二小学校がなくなってしまうと寂しいなという思いがあるんですけど、町長がおっしゃってたとおり私も最初は統合について地域の活力も無くなってしまうんじゃないか反対だったのですが、先ほどのここ数年の児童減少数を考えますとやむを得ないのかなと思っています。第二小学校地域の同級生と会って話したりするとやはり保護者の負担が大きいという話が出て、役場でなんとかしてよとかよく言われて、確かに私なんかあんまり経験がないからわからないんですけどそういった部分もあるのでそういう意見も取り入れて検討委員会を立ち上げてそういったいろいろな意見を聞いて結論を出していくのが大切だと思います。</p>
福島課長	<p>私は第一小学校出身ですけど、第一小学校だとあまり学校がなくなるとか考えていませんでした。こういう立場になってみると、去年は教育委員会でしたので、第二小学校の児童がなにしろ減っているの、第二小学校地域の方達がどう思っているかなど。あとは保護者の意見もよく聞いて検討委員会を開くべきだと思っています。先ほど染野主幹も言っていたんですが第二小学校ではPTAの役員の委員会なども減らしてきていて、おそ</p>

らく第一小学校もこれからそうなってくると思いますが保護者の負担が大きくなってきています。早目に検討委員会を立ち上げてやっていかなければと思います。

内田次長

私も第一小学校出身でして、子どもが減っているという実感はありましたが、学校がなくなるという危機感はありませんでした。4月に教育委員会に異動してきまして、学校の経営とか運営にいろいろ影響が出てきているということをはじめて感じました。教育長もおっしゃっていましたが、教職員の人事関係の話を聞いたとき、正規の教員は複式が予想されると配置してもらえないというのを知りました。子どもの数の把握が遅くなると、臨任の先生になってしまう。臨任の先生だと1年で異動になってしまうなど同じ先生に継続して見てもらうことが出来なくなる。複式でのんびりといいいところもありますが、果たして子どもの為がいいのかなという気がしています。第一小学校に行くと1クラスが30人後半の人数なんで、教室がぎゅうぎゅうなんですね。これほど違っているのかなという気がしまして、昔は第二小学校も一クラス30人くらいいてクラスの人数の差はほとんどなかったと思うんですが、今はその辺も違ってきています。地域の人の意見もちろんですが、保護者の方の意見などもすごく重要になると思うので、きめ細かく話を聞いていかないと最終的に納得が得られないと思うので、丁寧にやっていかなければならないと思っています。

坂本指導主事

私は長瀬町の出身ではないのですが第一小学校に8年間勤務をさせていただきました。今年度教育委員会でお世話になって9年目になっております。私自身教員籍でありますので学校現場で感じたこと、また教職員の中で話題に出ていることで申し上げますと先ほど千島主幹の報告の中でもでていたと思うんですけど、教育環境の格差に関しましては話が出る場合がございます。片や一桁代近くになってしまって1学級維持できるか複式学級になるかというところの人数と、片やあと1人2人いると2学級になるという、上限下限のぎりぎりが同一町内のあまり離れていない距離にあります。ちょっと道のこっちに行っただけで、子どもでうぎゅうの教室で荷物を空き教室においているような形なんですよ。そうでないと通路なんかは狭くなってしまっているというところもあります。また教員の側としてもかなり児童数が違う中での指導となり、育環境の格差は現場の先生たちは感じているところだと思います。先ほどの話の中でもありましたけども学校のPTAの方、現役の保護者の方からもPTA活動の負担の声というのがあがっております。この2学期に、はじめてなのか第二小学校はPTA組

<p>千島主幹</p>	<p>織を再編をする臨時総会を開いたそうです。来年のPTA広報をなくしたりですとか組織を統廃合したり、役員定数を減らしたりとかしないとおあるご家庭は小中高と役員をやっちゃってしまっているということが出てきてしまっていると聞きました。、同じ第二小学校の地域に住まわってる方でも地域の方と、小学校に子どもを預けている保護者の方でも声が違うのかなというのは話の中で感じるところでございます。</p> <p>私も第二小学校の出身ですので自分が通っていた学校、自分の親が出ていた学校、自分の子どもを入れようと思っている学校ですので、心情的には残したいなという気持ちはもちろんあります。あるデータを見たんですけど2018年から一年くらいで全国で200以上の小・中学校が統廃合しているというデータもあります。全国的に統廃合の波があつて長瀬町もその逆らえない部分もあるのかなという思いもあります。今後の学校を考えていく中で今の第一小学校・第二小学校を現状の通り残すのか、あるいは統合して小学校を一校にするのか、あるいは中学校も含んで一貫校を創るのかその3つが柱なのかなと思います。例えば小学校を統廃合するとすると、今の校舎を活かすとなると、第二小学校には全校生徒は入りきらないので、大規模改修なり増築なりをしていかなければならないという現状もありますし、もし第一小学校の方に統合すればという話になれば第二小学校は特に地域の方との繋がり深いこともありますので、そういう心情的な面や、いかに安全に児童を通学させるかという問題などにかくいろいろな問題が出てくると思います。それぞれ問題はあると思いますので、その辺のメリット、デメリットあるいは経費などにつきましても総合的に考えていかなければならない問題だかなと思います。</p>
<p>町長 教育長</p>	<p>では最後に第二小学校出身の教育長お願いします。</p> <p>皆様方のご意見ありがとうございました。とにかくここで何かしないと先に進まないんですね。皆様方のご意見を総合すると検討委員会を立ち上げさせていただいて、広くいろいろな意見を吸い取りベストな案に持つて行くように、まあこれも一年や二年じゃおさまらないと思いますが、子ども達も減少するのも目に見えていますので、そのへんを勘案しながら検討を重ねていきたいと考えています。どこでスタートを切っていくか、できれば早いスタートを切りたいと思っておりますがその辺のご意見も再度お聞きできれば有難い、町長の考えでも結構ですのでお願いしたいと思っております。</p>

町 長

ありがとうございます。一人ひとりから貴重なご意見をいただきました。私は今このままではもうどうしようもないから早急に検討委員会をつくって開いていただいて皆さんからもお話がありましたように、その中で保護者そして特に子ども達の意見、そして地域の皆様の意見をお聞きしてそれをまたベースにしてしっかりとした方向性をつくっていただくといいかなという気がしております。来年せめて4月あたりからでもなんとかしていただけるといいかなという思いがしているんですけど。その中で、検討委員会の中で皆さんの意見を聞き、そして統合にするか、一貫にするかいろいろと協議をしていただいて方向性を決めていただけたらいいかなという思いがしております。その中でそういう検討委員会が始まったということが町民に聞こえていくと、町民もいよいよ始まるかなというような思いをされてる方もたくさんいるようですので、いよいよどういう方向に進むかやっとな話が始まったな、ちょっと遅いんじゃないかというような意見もいただくとお思いますけど、そのような方向に持って行けたらいいかと思って皆さんのご意見を聞かせていただきました。先ほど政策会議というお話をさせていただきましたが、私と副町長、教育長そして総務課長、企画財政課長で政策会議をやっておりますので、その中でも、しっかりとまかせていただいて、今日皆様から伺った様な方向で持って行ければいいかなと今思ったところでございます。今後皆様方のご意見も踏まえながら、また現状もしっかりと見させていただく中でこの課題が解決できるよう、子どもさんが一番柱ですから子ども達がどういった教育環境が一番いいのかなということもしっかりと考えていきながら今後しっかりと検討をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。何か皆様の方から言い足りなかったなというところがございますでしょうか。よろしいですか。今日はちょうど第一小学校出身が4人、第二小学校出身が4人で両方の意見が聞けたかと思うんですけども。ではそのようなことで進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

続きまして議題3の「その他」に移らせていただきますけども皆様の方から何かございますでしょうか。

大丈夫ですか。それでは皆さんの方から特にないようですので本日上程いたしました議題がすべて終了いたしました。これをもちまして議長の任を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

福島課長

ありがとうございました。それでは次回の会議の関係ですけども、早急

にお集まりいただいていた協議等がない場合には年に一回開催を考えております。また時期がまいりましたら皆様にご連絡させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。本日は貴重なご意見等いただきまして誠にありがとうございました。以上をもちまして令和元年度長瀬町総合教育会議を終了させていただきます。大変ありがとうございました。

令和元年12月18日

町長 丸澤夕幸江

署名委員 工藤ちほる